

M113A1

FIRE SUPPORT VEHICLE



M113A1ファイヤーサポート MM 107

第2次大戦中のドイツのIV号戦車やアメリカのM4シャーマン戦車の例を見るまでもなく、傑作と言われる戦車や軍用車輛からは、多くのバリエーションタイプが生み出されています。このバリエーションの多さを、傑作の判断の基準とするなら、アメリカのM113装甲兵員輸送車は、戦後の傑作軍用車輛の第1にあげられることになるにちがいありません。M113からは、細かく分ければ実に100以上のバリエーションタイプが開発されているのです。

1956年、アメリカ陸軍は朝鮮戦争の経験をもとに、それまでのM59型水陸両用兵員輸送車にかわる新型装甲兵員輸送車の開発を要求、1957年、FMC社（フード・マシンアリー・ケミカル・コーポレーション）が担当してM113の開発が始められることになったのです。最大の特徴は、アルミ合金装甲を採用したことでしょう。鋼板製の装甲と同程度の耐弾性を持たせるために厚みを増さなければならないために重量の軽減にはあまり効果がないものの、生産性が高く、補強が不要なために内部が広くなるなどの利点がありました。人員は、操縦士を含めて13名、全長約4.9m、幅約2.7m、高さ約2.2m、戦闘重量約10トンと軽量小型で扱いやすく、最高速度は約60km/hとM60などの主力戦車と行動を共にするには十分であり、さらに空輸、水上走行も可能という機動性の高さも大きな特徴でした。1960年、最初の量産型がアメリカ陸軍に装備されて以来、M113は、1963年に制式化されたディーゼルエンジン型のM113A1型を加えて実に6万4000台（内4000台はイタリアの

OTOメララ社で生産）もの量産が行われたのです。そしてアメリカ、イタリアばかりでなく、西ドイツ、オランダ、スイス、イラン、イスラエルなど、35ヶ国で使われることになり、またそれぞれの国で独自のくふうを加えたバリエーション型が開発されることになったのです。

750台のM113およびM113A1を装備するオーストラリア陸軍もその例外ではなく、数種類のユニークなバリエーションタイプを開発しています。これらは、ベトナム戦争での経験をもとに開発されたもので、装甲軽偵察車、装甲架橋車などがありますが、火力支援用としてサラディン装甲車の回転砲塔を搭載したのが、M113A1装甲火力支援車（アーマード・ファイヤー・サポート・ビークル：A.F.S.V.）です。

M113A1装甲火力支援車の構成は、基本的にはM113A1にサラディン装甲車の回転砲塔をそっくり載せたものであり、砲塔搭載のため以外には、車体関係には大幅な変更はありません。エンジンは210馬力の出力を持つGMCの5063-5299型6V53シリーズ2サイクルV型6気筒水冷ディーゼルでM113A1と変わらず、駆動装置関係も同一となっています。砲塔搭載によって戦闘重量が約12トンと増大したために路外での行動力は多少低下したようですが、最高速度は約60km/hとほぼ同一で、空輸はもちろん、やはりキャタピラの推進力によって5.8km/hの速度で水上走行できる能力を持つことも変わりません。

砲塔は360度旋回が可能で、主砲の76mmカノン砲はマイナス10度～プラス20度の俯

仰角を持ち、粘着榴弾および榴弾の2種の砲弾を発射することによって戦車などの装甲車輛に対しても、また陣地攻撃にも威力を発揮します。

副武装は、主砲と同軸に口径7.62mm機関銃を装備、さらに同じく7.62mm機関銃を対空用に持っています。

M113A1ファイヤーサポートのこうした重武装は、ベトナム戦争の結果、戦場のタクシーと言われたM113装甲兵員輸送車の攻撃力の低さを大幅に補うことになったと言えるでしょう。オーストラリア陸軍では、さらにM113A1にスコビーオン戦車の砲塔を載せたものを開発しており、この2種の装甲火力支援車を合計63台保有し、他のバリエーションタイプと共に主に2個偵察／装甲兵員輸送車連隊に配備していると言われます。

1960年に登場したM113装甲兵員輸送車は、傑作の名をほしいままにしながらも、その後の戦術面の変化によって、乗員が乗車したままでの戦闘ができないことが欠点と見られるようになってきました。しかしこの攻撃力の弱さという点を別にすればM113の総合性能には十分なものがあり、こうしたオーストラリア陸軍の試みはM113の長所をそのまま生かした上で攻撃力を強化し、単なる兵士の移動手段ではなく、西ドイツが開発したマルダー歩兵戦闘車のようなMICV（メカナイズド・インファントリ・コンバット・ビークル）化をはかったものと言えるでしょう。

解説協力 三味幸雄



《作る前に読み下さい》

★お買い求めの際、または組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始められた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。

★タミヤからはピン入りの接着剤タミヤセメントが別売されております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

これは塗装指示のマークです。全体の塗装についてはP5のペインティングページを参考にして下さい。各部の塗装色名はすべてバクトラタミヤの色名で指示されています。色の正確なタミヤのカラーをご使用下さい。★塗料は必ずプラスチックモデル用をお使い下さい。

1 ホイールのくみため

《ドライブスプロケット》

★2個作ります

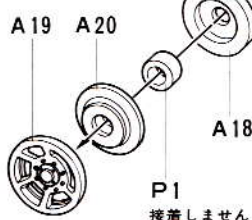
A5
接着しません



A21
スプロケットの歯を
合わせます

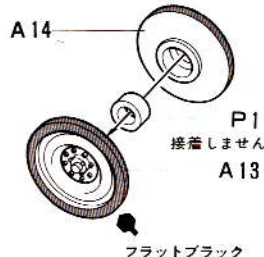
《アイドラー ホイール》

★2個作ります



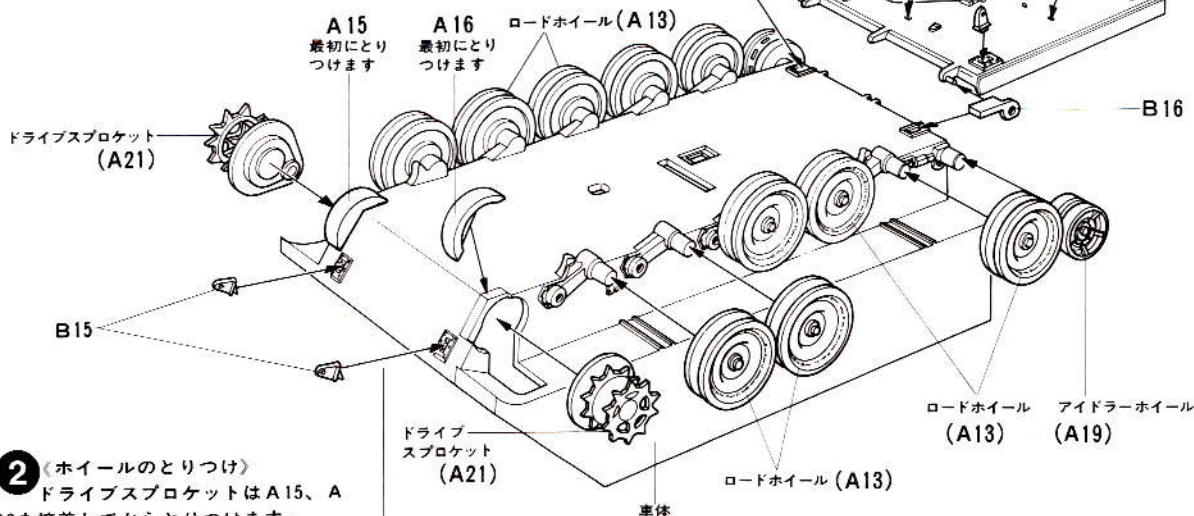
《ロードホイール》

★10個作ります



2 ホイールのとりつけ

★各ホイールは接着
せずに押し込みます



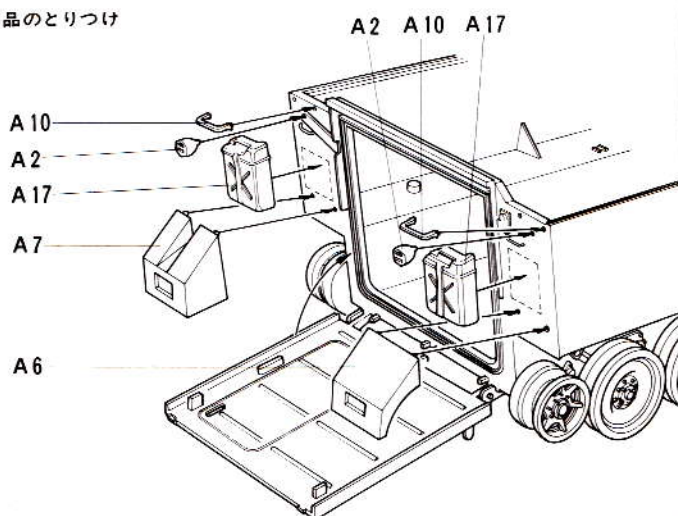
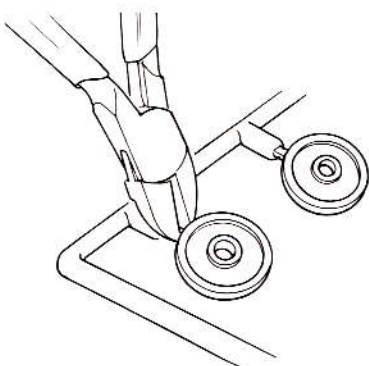
3 リヤ部品のとりつけ

《ホイールのとりつけ》

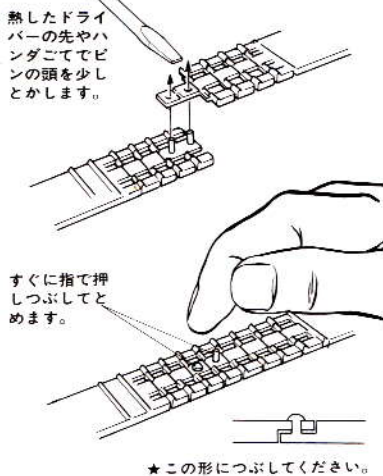
ドライブスプロケットはA15、A16を接着してからとりつけます。リヤハッチB3は可動ですので接着しません。

《部品を切りはなす》

各部品は指でもぎとらずにニッパーやナイフで切りはなします。切り口はナイフできれいに仕上げます。

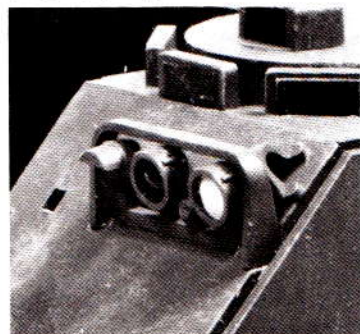


《キャタピラのくみ立て》★2本作ります

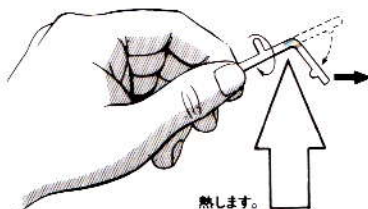


★キャタピラが切れたり焼止めが弱かった場合には図の様に、黒糸がホッチキスで補強して下さい。

《B11のとりつけ》



《アンテナの作り方》



★ランナー(部品の付いていたワク)を利用して作ります。上図のように熱し、曲ったらはじを引っぱってのばします。15秒くらい冷したら適当な長さに切って使用します。

★アンテナは火を使って作りますから充分注意して作りましょう。

3D SCENIC COLOUR

情景スプレー

情景製作に便利、特殊合成樹脂の細かな粉末のスプレーです。全4色。雪の表現、土の表現、草原の表現、砂漠の表現にご利用下さい。

TAMIYA CEMENT 40ml

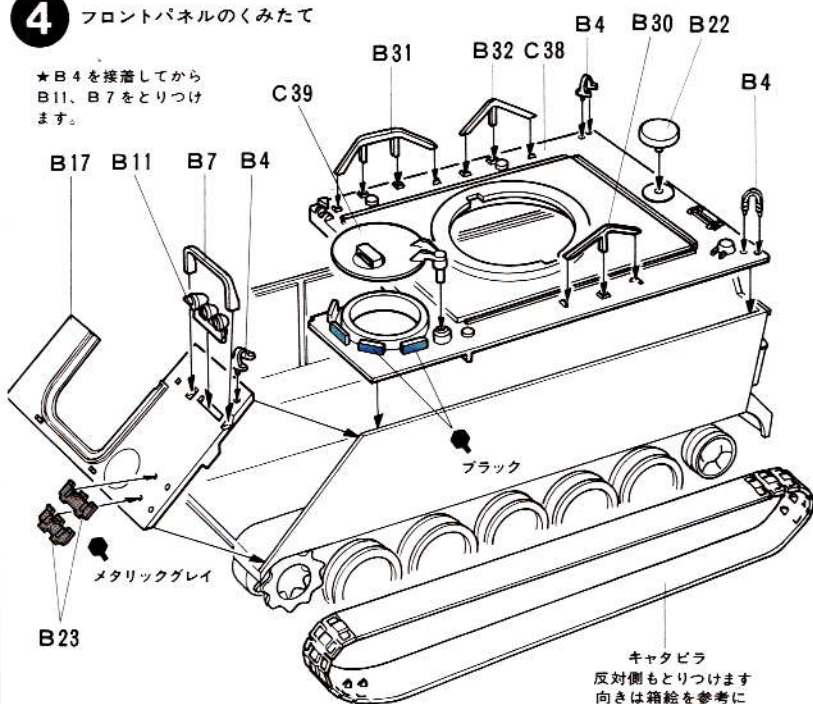
タミヤセメント(ピン入り)

プラスチックモデル用液体接着剤。安定性のいい使い易い四角いピン入り、容量もお徳用です。



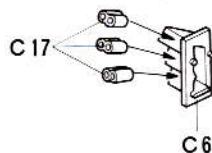
4 フロントパネルのくみ立て

★B4を接着してからB11、B7をとりつけます。

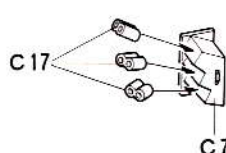


5 砲塔部品のくみ立て

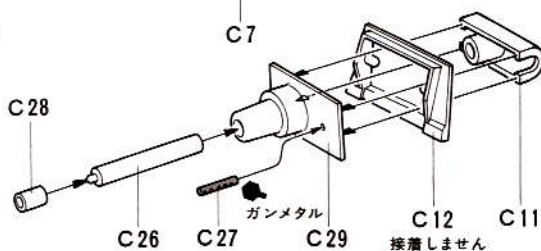
《スモークディスチャージャー右》



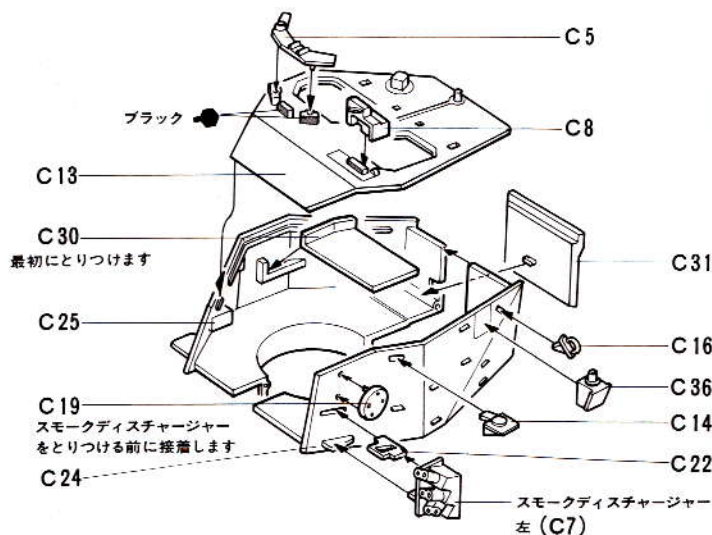
《スモークディスチャージャー左》



《76mmカノン砲》



6 砲塔のくみ立て



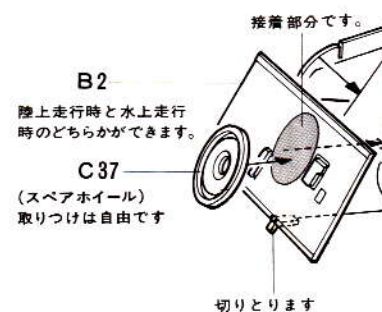
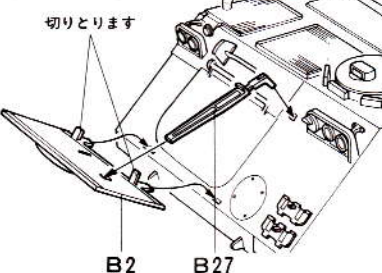
9 《砲塔のとりつけ》

★人形は下の写真を参考にとりつけます。



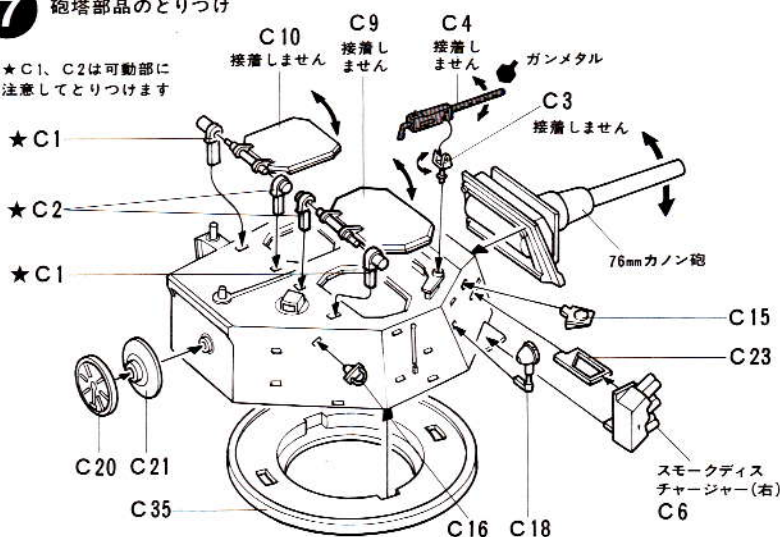
波切板 B 2 は水上走行の時の安定性を
ますためにとりつけられています。
キットでは水上走行時（降した状態）
と陸上走行時（上げた状態）のどちら
かに組み立てられます。

《水上走行時》



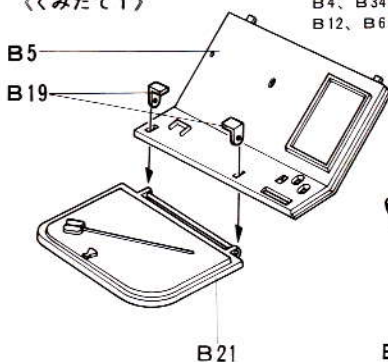
7 砲塔部品のとりつけ

★C1、C2は可動部に
注意してとりつけます

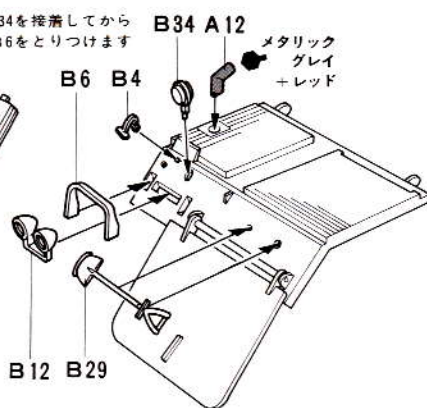


8 エンジンフードのくみため

《くみため1》



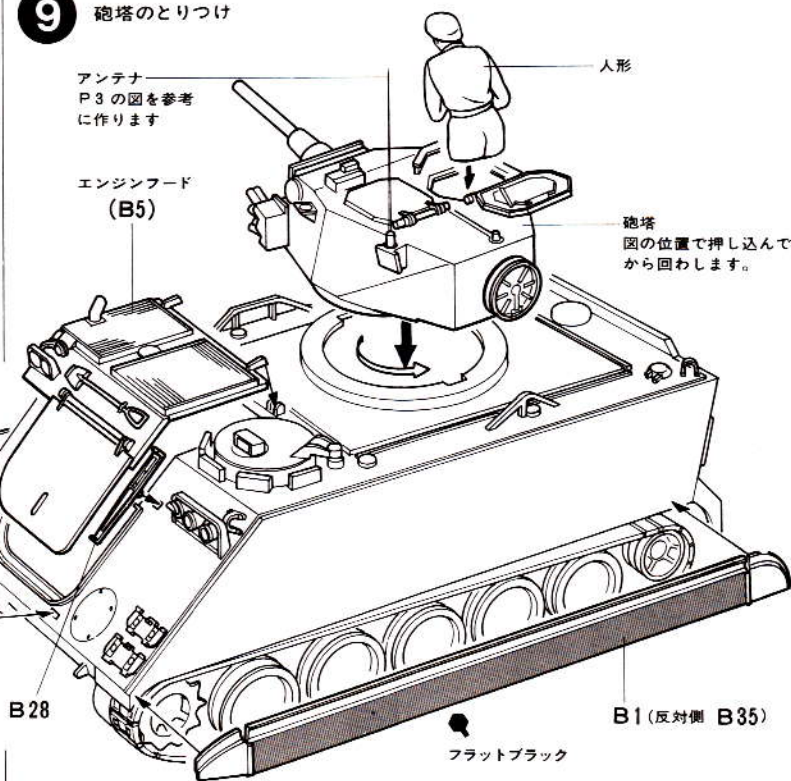
B4、B34を接合してから
B12、B6をとりつけます



9 砲塔のとりつけ

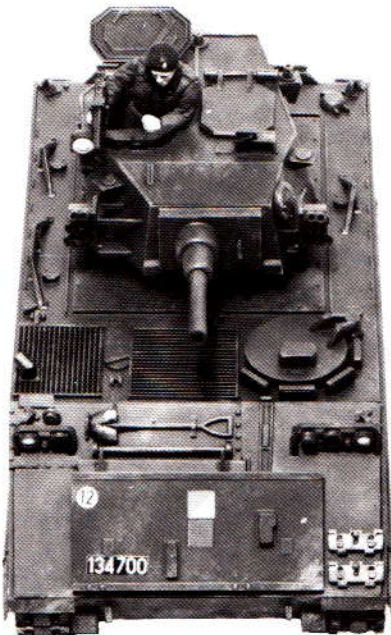
アンテナ
P3の図を参考
に作ります

エンジンフード
(B5)

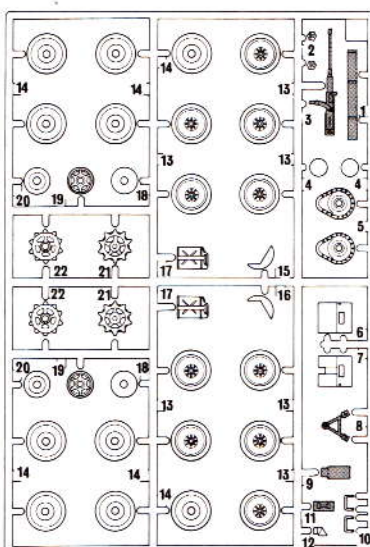


5

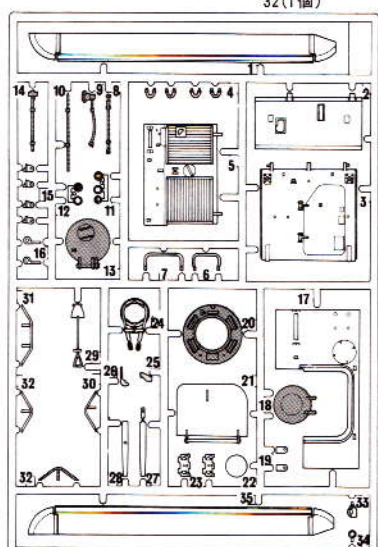
16mm 351531 216/077



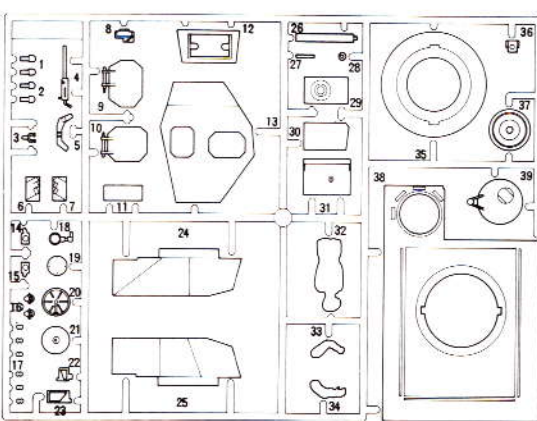
A 部品 不要部品 1、3、8、9、11



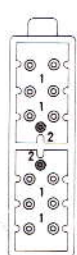
B 部品 不要部品 8、9、10、13、14、18、20、25、32(1個)



C 部品



P 部品 不要部品 2



《使用する塗料》

スプレー式タミヤカラーより
オリーブドラブ……………TS- 5

筆塗り用タミヤカラーより
ブラック……………X 1
ガンメタル……………X 10
クロームシルバー……………X 11
フラットブラック……………X F 1
フラットグリーン……………X F 5
フラットブラウン……………X F 10
フラットフレッシュ……………X F 15
メタリックグレイ……………X F 56
オリーブドラブ……………X F 62



TAMIYA COLOR

タミヤカラー(アクリル塗料)

塗りやすい水溶性塗料です。安全性が高く筆は水洗いもできます。木や金属、発泡スチロールなど広く使え、スプレー塗装もOK。

タミヤの総合カタログ

タミヤの全製品を詳しく解説した総合カタログは年に1回発行。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。

タミヤニュースを読もう

タミヤニュースはモデル作りの情報誌として多くの方に愛読されています。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。当社より定期購読する方法もあります。

万一不良部品、不足部品などありました場合には、当社アフターサービス係までご連絡下さい。
〒422 静岡市恩田原3-7
田宮模型アフターサービス係
☎ 054 (283) 0003

